

アフターコロナの住まい

リビングサービス課 大森 カ



当社でも、この春、新型コロナウイルスによる感染拡大予防として一定期間、仕事の仕方が変わりました。営業は在宅勤務が中心で、事務所では密を避けるため部屋を分けての仕事となりました。

在宅勤務をやってみて思ったことは、すべてが自己管理なのでなまけようと思えばなまけれます、しかし実際は子供など家族が居ながらの仕事は正直中々はかどらず、また在宅でできる仕事ばかりでなく、やはり事務所でしかできないことがあって、仕事自体スムーズに進みませんでした。仕事と休みのオンオフが難しく、

結局ずっ〜と仕事をしている感覚でした。なぜそのような感覚になったのか考えて分かったことがありました。

それは、現在の住んでいる家自体がそもそも24時間そこで過ごすように作られていないことです。そのためずっと家で居ることが原因でストレスを感じたり、何をどうしたらいいのか分からずテレビやパソコン、スマホばかり見てしまっていることになっています。また、オンとオフの切り替えができなかったり、部屋の片づけをしなくてはと気になり、気になってみたものの収納が十分でないことに気づいたり、そんな中で過ごしていたりします。

そこで、これからアフターコロナの住まいとしては、「その人なりの家での快適な過ごし方に合った家」かなあと 생각합니다。例えば、料理をするのが好き、本を読むのが好き、お風呂でリラックスするのが好き、音楽を聴くのが好き、庭の手入れが好き、寝るのが好きなどモノでなくコトから考え直していくことです。音楽を聴くこと一つをとってみても、どんな部屋で、どんな椅子に座って、どんな音楽をどんなふうに聴きたいかは人それぞれです。これらはリフォームで実現はできます。

今住んでいる家が、寝るためと食べるためのモノと可しているとコロナの在宅勤務で少しわかったように思います。都会の方では家だけでなくどの街に住むといったことまで考え直す人もいますし、家族との関係性にストレスを感じ始めた人もいます。距離感が近すぎて関係が悪くなったというケースも増えてきています。人間関係はもちろんあるとは思いますが、住宅そのものにも問題があるのではないのでしょうか？

今、一旦は落ち着いているかのようですが、第二波、第三波と来る可能性はあります。今後のことを考えて24時間、快適に過ごせる家にするために、どこをどうすればいいのか、この一旦アフターコロナ？の時期に一度考えてみてはいかがでしょうか。

水の大切さ

ホームガス課 上田 耕也

水道普及率が約97%に達する日本では、蛇口をひねると水が出で来るのが当たり前になっています。しかし、暮らしのほとんどを水道水に依存している今、もし水が無くなったら、私たちの生活はどうなるのでしょうか。飲料水はもちろんのこと、食事の準備やトイレ、洗濯などあらゆる場面で欠かせない存在となっている水は、給水支援やライフラインの回復を待つだけでなく、自分たちの力で生活できるよう防災対策として備蓄しておくことが大切です。

では、水分不足にならないためには、大人ひとりあたりどれだけの水分量が必要なのでしょうか。一般的には1人1日3リットルの飲料水が必要となります。大人ひとりあたり1日に必要な水の量は、飲料水と生活用水を含めて3リットルで、最低3日分、できれば5日分を備蓄するのが理想です。(ひとりあたり9〜15リットル必要)

水は飲料用だけでなく、以下のシーンで必要となります。

① 脱水症状や血流が悪くなるのを防ぐため

- ・水分補給 (1日2〜2.5リットル必要)

② トイレ使用するため

- ・トイレ (水を流すには1回につき約10リットル必要)

③ 食事をするため

- ・食事 (水なしで作れる非常食もありますが、多くの料理では水が必要となります)

④ 体を清潔に保ち、感染症を予防するため

- ・手洗い・歯磨 (1度の歯磨きに、3口程度の水が必要)・洗面・洗髪
- ・入浴 (タオルを濡らして体を拭くのに500ミリリットル必要)

人が生活するのに、これだけ水を使う必要があるのです。もしもオフィスに50人いて、それぞれ3〜5日分の水を用意するとすると、なんと450〜750リットルもの水が必要になります。それでもたった5日分の水分しかありません。

水を確保する有効的な手段としてローリングストック法があります。

地震などの災害時のために、普段食べているもの・飲んでいるものを多めに買い置きし、なくなったら新たに補充する備蓄方法を「ローリングストック法」と呼んでいます。

備蓄する水が古くならないように、1番古いものから消費します。水分はどれだけあっても困らないものです。飲んだ分は必ず補充。そうすることで、常に一定量以上の水分を保管することができます。

ローリングストック法を導入するメリットは4つあります。

- ① 備蓄を始めやすい
- ② 保管場所が慣れ親しんだ場所になる
- ③ 消費期限は切らさない
- ④ 災害発生時にも安心して水分を摂ることができる

水をローリングストック法で管理するとき、気をつけるべき点は使う順序を間違えないことです。次に飲む水がわかりやすいよう、目印をつけておいてもいいかもしれません。

井戸などがあればその水を生活用水に使用することは可能ですが、各家にあるとは限りません。一度、水が無い生活を想像してみてください。ぞっとします。一人一人できることから、備えを始めたと思います。

1日1人3ℓ×3日分

地震災害で水の供給が止まった時に備えて、備蓄しておいたほうがよいとされる飲料水の量は1日1人3ℓ×3日分といわれています。例えば家族4人分なら36ℓ。ウォーターネットの宅配水ならボトル3本分です。

※ 水道設備の故障や停電で給水不能となった場合、水の配給や給水車の出勤に3日ほどが必要となるため

● 4人家族の場合 (36リットル=ボトル3本の備蓄水)

